

日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会 12月例会報告

訪中団報告会「第2位の経済大国、その首都を見て」

～2019年度・訪中団(北京・天津)、3名による帰国報告～

日時 2019年12月9日(月) 18:30より(受付開始 18:00)

場所 大阪産業創造館 / 参加者 40名

大阪府中小企業家同友会の訪中団。今年は首都・北京と天津を訪問しました(10月20日～24日)。ITやAI、ロボットなど時代を象徴する分野で世界をリードする中国の首都で活動する企業家たちは、いかに生き残ろうとしているのでしょうか? 今回の訪中参加者メンバーから3人が登壇し、その体験を語っていただきました。



細田工業株式会社 技術部社員 戴 維雅 さん

訪中団への参加は今回2回目です。私は元々は中国の北京出身ということもあり、今回の訪中団では旅の企画段階から関わって現地のコーディネートもお手伝いさせていただきました。

母校である北京連合大学にも9年ぶりに訪れることができ、懐かしかった反面、顔認証システムや4D映画館、ゴルフのシミュレーションシステムなど、最新の設備が導入されていて、劇的な変化にとっても驚きました。また、同大学の観光学科で日本語を学ぶ学生さんたちと交流する機会も持て、今の学生の意見や考えなどを直接聞けて大変参考になりました。

今回の訪中で改めて感じたことは、中国は一党制なので、政治の意思決定が早く、あらゆることが早く進みます。キャッシュレスなど今はほとんど財布を持ち歩く必要がないほどです。一方で一党制の残念なところは、民主主義を受け入れないところですね。最近の香港問題などがいい例ですね。

中国の発展は著しいとはいえ、一人当たりのGDPは日本の4分の1です。まだまだ国内に住む人たちの経済や教育の格差は大きく、さらに広がっています。そうした面では日本はまだしっかりしていて、学ぶことがたくさんあるなと思いました。

エスピー工業株式会社 代表取締役 原口 彰大 さん

同友会に入って10年になるのですが支部の例会もほとんど参加していないにもかかわらず、チラシを見ただけで訪中団に行こうと思い立ちました。理由は、弊社は食品機械を作っているのですが、お客さんが最近中国から機械や装置を買って導入したりし始めているということを聞いていたので、このまま何も知らないのもダメだなと思っていたからです。

今回私の一番印象に残っているところはアルプス物流さんです。まずは非保税倉庫というところがあるということです。地

元の法律や情報などにも精通していないとできない仕事です。物流だけに留まらずそうした新しい付加価値をつけて仕事にされているところにとっても感心しました。そしてまたそのアルプス物流さんの方から「中国では、政府が社会主義的に方針を決め、下部組織の人たちが民主主義的に実行・運営していくのですよ」と言われたことも、印象に残りました。企業経営とよく似ていると思いました。国も企業もまずはトップの決断(方向性を決める)が重要であるという点は、面白いなと感じました。その他とても内容が充実して、さまざまなことが参考になりました。ありがとうございます。

アステム株式会社 代表取締役 柴田 充啓 さん

訪中団の参加は今回で2回目です。そして北京・天津も、8年前に訪問して以来2度目の訪問でした。歩くことすら命がけだった昔と変わって、現在の北京は、車のマナーもよくなりました。今回、訪問先でお聞きした内容は、どれも私たちのもっている知識・認識とは違っており、私は正直少々危機感すら覚えました。最近の中国では、企業に対し環境に関する規制を強化し企業もまた真剣に取り組んでいること。一人っ子政策に終止符を打ち、教育に力を注ぎ、優秀な人材を育成していること、そして戦略性新興産業と呼ばれる最先端の分野や人材に莫大な投資をし続けていることです。中国は「One Country」をめざしています。人々は、失敗をおそれずにどんどん新しいものにどん欲に取り組んでいます。そのような中国ですから、今後ますますイノベーションを生んでいくのだと思います。国全体がどんどん発展もしていくでしょう。日本は、今のままでいいのでしょうか? そう感じたのが私の感想です。最後に、新参者の私をみなさんとても温かく迎え入れていただき、ありがとうございました。

まとめ 日中経済交流研究会 広報委員会

※2月5日(水)にミャンマー視察団の報告もあります。ぜひご参加ください。詳細は、例会の案内チラシをご覧ください。